

Instructor -講師陣-



竹内 伸一 (たけうち しんいち) 名古屋商科大学大学院 マネジメント研究科 教授

1988年早稲田大学教育学部卒業。マツダ株式会社を経て、2004年慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了、修士(経営学)。2011年慶應義塾大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学。2015年広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了、博士(教育学)。2004年筑波大学大学院研究センター客員研究員、2006年慶應義塾大学大学院経営管理研究科特別研究助手、2007年特別研究講師、2011年特任准教授。2016年徳島文理大学人間生活学部教授。2018年4月より現職。



村上 敏也 (むらかみ としや) 金沢工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 教授

1997年慶應義塾大学環境情報学部卒業。学生時代より複数のITベンチャーにて奔走し、技術担当役員などを経て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了(MBA)、博士(経営学)。東京工科大学・多摩大学・立教大学等での非常勤講師の後、県立広島大学大学院経営管理研究科准教授を経て2018年4月より現職。認定ケースメソッド・インストラクター(慶應ビジネススクール・ケースメソッド授業法研究普及室)。広島県「チームイノベーション道場」教育プログラム開発実証委員。慶應義塾大学ビジネススクール非常勤講師。



黒岩 健一郎 (くろいわ けんいちろう) 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科 教授

1990年早稲田大学理工学部建築学科卒業。住友商事株式会社を経て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了。修士(経営学)。同大学院後期博士課程単位取得退学。博士(経営学)。2003年武蔵大学経済学部専任講師、准教授、教授を経て2014年より現職。専門はマーケティング論、認定ケースメソッド・インストラクター(慶應ビジネススクール・ケースメソッド授業法研究普及室)。主著に「ケースメソッドの教科書 これさえ読めば授業・研修ができる」(2022年、碩学会)「サービス・マーケティングコンサル会社のプロジェクト・ファイルから学ぶ」(2021年、有斐閣)など。



丸尾 聡 (まるお あきら) 丸尾経営教育研究室 代表

東京藝術大学卒業、東京理科大学大学院修士課程修了。事業理念をデザインする会社を起業後、株式会社日本総合研究所の立上げに参画。顧客と協働して、事業づくりと人づくりを推進する「合併事業設立型経営コンサルティング」モデルを構築。さらに、合併企業を株式上場まで牽引。他方で中山間地域において、異業種交流の成果を事業化。駒澤大学、上智大学大学院などの講師として、学生のアイデアを事業化。現在は、大企業の新規事業人材育成の研修講師として従事。事業構想大学院大学教授 兼 事業構想研究所副所長。慶應義塾大学ビジネススクール講師。



水野 由香里 (みずの ゆかり) 立命館大学大学院 経営管理研究科 教授

1998年聖心女子大学卒業。2000年一橋大学商学研究科修士課程修了。2005年同博士後期課程単位取得満期退学。2019年東北大学博士(経営学)。2005年独立行政法人中小企業基盤整備機構リサーチャー。2007年西武文理大学サービス経営学部専任講師。2013年准教授。2016年国士舘大学経営学部准教授。2018年教授。2021年4月より現職。代表的な著書に「小規模企業の特徴を活かすイノベーションのマネジメント」(2015年、碩学会、2016年度「中小企業研究奨励賞」受賞)、「戦略は「組織の強さ」に従う」(2018年、中央経済社)、「レジリエンスと経営戦略」(2019年、白桃書房)、「エビデンスから考えるマネジメント入門」(共著、2022年、中央経済社)、「ケースメソッドの教科書」(共著、2022年、碩学ビジネス双書)がある。

Voice of Customer -受講者の声-

① 30代 役員

本研修を通じて、意思決定をする際に理由やメリット・デメリットを書き出す事が習慣化できました。これまでは自身の頭の中で考えて決断を下す事が多かったのですが、グループワークなどを通じて、アウトプットする・見える化することの効果を実感できました。また、本研修を通じて「学びの場」の雰囲気や醸成されていることで、たくさん学びがあったと感じました。当社も意欲をもった学びの集団に成長していきたいと思えます。



③ 30代 管理職

印象的だったのは、これだけ分析や討論をしたもたどり着いた答えに正解がないということです。こう導くのが正解というのではなく、建設的な批判も交えながら意見を出し、普段以上に自分の言葉でどう伝えるか、相手に伝わるにはどう言うか、相手の意図をどのように汲み取るかを意識したように感じます。また、ケースメソッドの心構えである「勇気・礼節・寛容」は今後も意識しようと思います。

② 50代 代表者

正解の無いケースをあれこれ考え、皆さんによる色々な視点を加えながらさらに悩み続ける、これはまさに中小企業の経営そのものだと感じました。

④ 40代 役員

自社の強みや弱みを再分析し、どのように活かし伸ばすか、対策するかのビジョンを自分の中でより確実に描かなければならない。過去の分析を見直し、今後の経営計画について再考したい。

受講対象について

資本金又は従業員数のいずれかが、右記の表に掲げる範囲に該当する日本国内の中小企業の経営者・管理者・従業員、後継者の方ならどなたでも受講できます。

(※)その他の業種には、鉱業、電気・ガス・熱供給・水道業、金融・保険業、不動産業等が含まれます。

区分	資本金	従業員数
製造業、運輸業、建設業、ソフトウェア業、情報処理サービス業、その他の業種(※)	3億円以下	300人以下
卸売業	1億円以下	100人以下
小売業	5千万円以下	50人以下
サービス業	5千万円以下	100人以下
旅館業	5千万円以下	200人以下



- 1 中小企業大学校 関西校ホームページの各研修ページよりお申込みください。
<https://www.smrj.go.jp/institute/kansai/>

「関西校」で検索できます
関西校のページ≫ 研修一覧・受講申込み≫
中小企業者向け研修 研修一覧【2023年度】
各研修をクリック

- 2 申込みが完了しますと、「事務連絡先担当者」のメールアドレスに、確認メールが送信されます。
- 3 開講のおおむね1か月前に「受講決定通知書」が送付されます。受講料のお振込みのご案内、カリキュラム等が同封されます。
※送付先は事務連絡先担当者様、または代表者様宛です。
- 4 所定の期日までに受講料をお振込みください。
- 5 研修開始時間までに会場にお越しください。



受講申込みのご案内



アクセス

御堂筋キャンパス



アクセス

- Osaka Metro (大阪メトロ)
 - 堺筋線・中央線「堺筋本町」駅から徒歩2分(17番出口)
 - 御堂筋線・中央線「本町」駅から徒歩5分(3番・7番出口)



大阪国際ビルディング

中小企業大学校関西校 御堂筋キャンパス (中小機構 近畿本部内)
TEL:06-6530-0029 大阪市中央区安土町2丁目3-13 大阪国際ビルディング27階

お問合せ

高度実践型 経営力強化 コース

10月開講 6か月(全13日)

2023年

10月24日(火)~3月15日(金)

2024年

- ▶ 対象者 / 経営者・経営幹部
- ▶ 受講料 / 153,000円 (税込)
- ▶ 定員 / 20名
- ▶ 会場 / 御堂筋キャンパス

大阪市中央区安土町2-3-13
大阪国際ビルディング27階 セミナールーム

ケースメソッドで磨く 経営者の意思決定力



Concept -研修のねらい-

感染症の世界的な拡大を契機として、企業も個人も従来の生活様式からテレワーク等に代表される非接触型の新しい様式への移行を余儀なくされており、こうした状況が、5G、AI、IoT、ロボットなど、デジタル化の急激な進展に拍車をかけています。このような急激な環境変化に迅速に適応し、自社ビジネスの変革へ取り組んでいくために、経営の中核を担う人材には、論理的な思考に加え、データに基づいた思考や新事業を産み出す柔軟な発想法、組織一体で実行していく力など、経営課題に対峙する多面的な力の向上がより一層求められます。本研修では、企業経営の現場で直面する経営課題や意思決定が求められる場を再現したケース研究を通じて、経営分析手法やフレームワークを活用しながら、複雑に絡み合う要素を紐解く問題解決力と最適な意思決定ができる経営力を身につけます。

コース概要

- 日程 / 全13日(85時間)
2023年10月24日(火)～2024年3月15日(金)
 - 対象者 / 経営者・経営幹部
 - 受講料 / 153,000円(税込)
 - 定員 / 20名
 - 会場 / 御堂筋キャンパス
- 大阪市中央区安土町2-3-13
大阪国際ビルディング27階セミナールーム



Feature -研修の特徴-

- 1 経営の現場を疑似体験するケースメソッドによる研修です。
- 2 ケースを通じて、自社の経営を見つめ直すことができます。
- 3 総合演習を通じて、経営者に求められる7つのスキル習得を目指します。



●グループ総合演習



Curriculum -カリキュラム-

本コースではケースメソッドを採用しています。基本的に、

1ケースガイダンス → 2個人ワーク → 3グループ討議 → 4クラス討議

の流れで進めていきます。コース後半では、具体的なケースを使用したグループ総合演習に取り組みます。総合演習を通して、組織一体で実行する力を身につけます。

※各回のインターバルに次回のケース教材の読み込みと自身の見解をまとめる事前学習やグループでの事前討議などの課題が出ます。

1 ケースガイダンス

ケースを読み解く上で必要な事前知識の補足を行います。



2 個人ワーク

ケースを個人で熟読して設問に対する自分なりの提案を検討します。



3 グループ討議

個人ワークの検討結果を持ち寄り、グループで討議し、クラス討議に向けて各自の意見を整理します。



4 クラス討議

クラス全体で各自の意見を討議します。討議後に学びのポイントのレクチャーを受け、最後に学びの振り返りをします。



1st Term 事業環境/イノベーション/会計情報の活用

月日	時間	科目	内容
10月24日(火)	9:15～9:30	オリエンテーション	高度な経営課題への対応が求められる経営陣には、様々な能力が求められます。本研修での到達目標を明らかにした上で、経営者・経営幹部に求められる能力や役割を学びます。また、本研修で採用するケースメソッドの進め方を解説します。
	9:30～11:00	ガイダンス ケースメソッドの進め方	
	11:00～17:30	事業環境/ 事業の成功要因	経営者として押さえておきたい経営戦略策定に必要な視点や基本的なモデルを理解した上で、ケースを用いた演習を通して、実践的に学びます。 ◆ケース:「エムケイ株式会社」
10月25日(水)	9:40～17:40	イノベーション/ 新事業への挑戦	事業環境の変化、新規事業への果敢な挑戦と蹉跌。成長の機会に直面する企業経営者のケースを題材に、イノベーションに必要な要件、企業が成長し続けるための具体的な施策と優先順位について、個人、グループ、そしてクラス全体での討議により多角的に考えます。 ◆ケース:「カフェワンダーストープ」
10月26日(木)	9:40～17:40	会計情報の活用	ビジネスにおいては、「数字で物事を捉える」、「数字を創って、数字で考える」ことが重要になります。数字を示せば、考えの根拠を共有でき、新しいデータで意思決定を改善できるようになります。ケース研究を通じて、「意思決定に会計情報を活用する手法」について学びます。 ◆ケース:「あるガソリンスタンドの課題」

2nd Term 新事業展開

月日	時間	科目	内容
11月16日(木)	9:40～16:40	新事業展開	環境変化に対応し新事業展開を検討する必要性が今後ますます高まると考えられます。新事業展開、ビジネスモデルの構築に際して重要となるフレームワークや発想法、意思決定プロセス、プロジェクトの進め方等について、ケース研究を通じて学びます。 ◆ケース:「株式会社ぐるなび」「IDEO」「株式会社大洋発條製作所」
11月17日(金)	9:40～16:40		

3rd Term 経営基盤の強化/人材マネジメント/事業継続

月日	時間	科目	内容
12月13日(水)	9:40～16:40	経営基盤の強化/ 人材マネジメント	限られた経営資源と制約条件の中で課題を解決するためには、事業の成功要因を分析し、経営上の施策と結びつけることが重要です。ケース研究を通じて、人材に配慮して効果的に施策を実施するプロセスを組み立てる方法を学びます。 ◆ケース:「TESSEIの苦境」
12月14日(木)	9:40～16:40	事業継続	人口減少社会で事業を存続させるために、経営者には事業継続などの対策について予め検討しておくことが求められています。本ケースでは、自社を持続的発展に導く組織変革や経営理念の理解を通じた次世代への事業継続について考えます ◆ケース:「タビオ株式会社(旧名:株式会社ダン)」

4th Term グループ総合演習 I

月日	時間	科目	内容
1月16日(火)	9:40～17:40	《グループ総合演習I》 環境変化と 組織のレジリエンス	大きな環境変化に対し、経営者は時として、重要な経営判断を迫られる場面に直面します。ケース研究を通じて、経営判断に必要な意思決定力と、実行段階に必要な課題抽出・解決力を実践的に高めます。また、経営者には、組織をまとめ上げて難局を乗り切る危機対応力、経営の行く末を左右するプロジェクトを成功につなげるマネジメント力や意思決定力が求められます。プロジェクトを成功に導くために、組織のレジリエンスを高め、現場で活躍する経営者の判断力や管理能力についてケース研究を通じて学びます。 ◆ケース:「玉田工業の事業展開の軌跡」 『『国難を救う!』と不可能を可能にした企業の軌跡』
1月17日(水)			

5th Term グループ総合演習 II(1)

月日	時間	科目	内容
2月15日(木)	9:40～17:40	《グループ総合演習II》 デジタル化と イノベーション(1)	社会・経済のデジタル化が急速に進展する現在、大きな環境変化に対応するため、業種や規模にかかわらずデジタル・トランスフォーメーション(DX)と呼ばれるイノベーション創出への取り組みが喫緊の課題となっています。こうしたデジタル化のなかでも、デジタル化の基盤となるデータ活用の捉え方と自社での応用方法について、AI(機械学習)を活用する新規事業をいち早く展開できた企業のケースを通して考えます。また、グループ演習を通して、デジタル環境に適応するイノベーション実現の手法について学びます。 ◆ケース:「トリトンの矛」
2月16日(金)			

6th Term グループ総合演習 II(2)

月日	時間	科目	内容
3月14日(木)	9:40～16:40	《グループ総合演習II》 デジタル化と イノベーション(2)	AI(機械学習)を活用した新しい事業を起業したケースの討議と、グループで検討したアイデアの共有とフィードバックを通して、自社の新たな事業創出の可能性について検討を深めます。また、AI以外の多様なデジタル技術等にも発想を広げていきます。 ◆ケース:「FUKUDA」
3月15日(金)			

※カリキュラムは都合により変更する場合がありますので予めご了承ください。